

# 乗務員運用合理化に對する裏切り弾!

## 日刊動労千葉

80.10.7

No. 551

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二二五八〇九(公衆)品三(22)七二〇七

### 9月末妥結↓11月1日実施に 卒先協力する『本部』反動分子!

動労「本部」反動分子は、職場生産点からの反対の声を無視して、「五五・一〇ダイ改」交渉にまぎれて、乗務員運用合理化を一方的に当局と妥結し協定を結んだ。

乗務員運用合理化に対する裏切りの妥結は、十月暫定ダイヤ、十一月一日日本実施であり、東京三局で実に、電車運転士一九〇名要員減という内容である。

これは「貨物安定宣言」をもって、企業防衛主義、合理化推進派として自己を全面開花させた「本部」反動分子が、第三六回(名古屋)全国大会で「大胆な妥協路線」を打ち出し、今や三五万人体制合理化推進の国鉄当局の武装親衛隊として国鉄労働者に敵対する姿を全面開花させたものである。

われわれは、「本部」反動分子の乗務員運用合理化卒先協力の裏切りを満腔の怒りをもって糾弾しなければならない。

#### 明白な「本部」革マル反動分子の裏切り

われわれは、この間乗務員運用合理化攻撃の内実を暴露し、闘いの重要性を訴えてきた。

それは、東鉄三局提示の乗務員運用合理化攻撃に表わされたように、「仕業の大型化」「W泊の設定」「一継続乗務キロ、及び一仕業の乗務キロ延長」等々、を通して、一九六九年段階の労働条件にひきもどそうとするものである。

つまりこれは、この十年来、国鉄労働者が血と汗の苦闘で闘いつつてきた成果を一挙に奪い取るうとする凄まじい労働強化の攻撃であること。

そして、この攻撃が国鉄三五万人体制合理化攻撃の焦点として、東京三局のみに止まらず、全国の乗務員の運用効率アップ＝合理化のための突破口としてかけられてきた攻撃であり、したがって乗務員運用合理化阻止の闘いを「一地方の問題」として切り縮めることなく、三五万人体制合理化粉碎の重要な闘いの軸として取組むことを訴えてきた。

これに対して「本部」反動分子は、昨年七月動労東京地本大会で「協定以外の要員はきだし」論をもって、卒先して乗務員運用合理化を推進することを「路線化」してきたのである。

この「路線」は、国鉄労働者の利益を売り渡し「国電乗務員の運用合理化で生み出した要員を東北・上越新幹線に送り込み、戦闘的労働者を排除し、当局の武装親衛隊としての自己の勢力を動労内で拡大し、動労を私物化する」という動労内革

マルのセクツ的延命策として積極的にうち出されたものであった。

今回の乗務員運用合理化に対する裏切りの妥結は、かかる動労内革マルの「路線」によってひきおこされたものである。

武操合理化に卒先して協力し、「貨物安定宣言」をもって貨物合理化の尖兵と化し、いまた、乗務員運用合理化の卒先推進者となつて国鉄労働者の利益を売り渡す動労内革マルを断罪し、一刻も早く動労から一掃しよう。

### 県労連大会で「日刊動 労千葉」優秀賞を受賞!

第二七回県労連定期大会は、十月四日、千葉県医療センター大講堂で開催された。この大会には動労千葉から代議員として中野、関、片岡永田の四氏、特別代議員として日暮、白井氏が出席した。大会は、向う一年間の運動方針と、井原議長をはじめとする役員を選出して成功裡に終了した。なお、役選の中で関川委員長は、常任幹事に満票で再選された。

大会の中で、第三回機関紙コンクール入選作品の表彰が行われ、「日刊動労千葉」が第一種の部で、「スクラム」千葉運転区支部かべしんぶんが第三種の部で、それぞれ優秀賞を受賞した。